

平成19年度事後評価結果（平成20年 3月）

[研究開発課題名] 全方位高解像リアルタイム動画入力とその配信システムに関する研究開発

[委託機関名] 株式会社映蔵

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>中核技術である全方位複合センサカメラが、提案時のスペックよりもややグレードダウンした点、リアルタイム処理を仮定した場合に、高解像度・高フレームレートの画像作成アルゴリズムの性能が十分ではない点等、やや物足りない部分がある。また、用途に特化した最適化が行なわれているかという点についても、必ずしも十分な説得力を有していない。しかし、このような欠点を差し引いても、提案手法の独創性は極めて高く、技術的には所期の設定をほぼ満たしていると考えられる。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>6,400万画素、水平方向360度の高精細周囲動画入力と配信システムを製品化しようとする事業化計画である。</p> <p>現在では、動体監視、セキュリティなど、1,000万画素程度の限られた市場向きに製品化されているが、今後は、屋内外のセキュリティ監視、マシンビジョンなどの工業計測、航空撮影動画写真、インターネット映画館、文化遺産等のデジタルアーカイブ、全方位撮影機能付のビデオカメラなど、高精細動画ならではのカラーアプリケーションの開発、提供によって、遠隔会議、遠隔教育、遠隔医療等、新たな市場が期待される。</p> <p>しかし、2004年度の間評価時点の計画から、事業化計画は2～3年遅延している。これは、本成果に基づく製品類の製品開発、製造、販売、メンテナンスを行うアライアンス企業の決定の遅れが主要因である。そのために、アライアンス候補企業向きのプロモーション用に、小型検証機を2008年度末までに試作しようとしている。また、社内に事業化推進委員会を設置して、社長、関係者を含めて、アライアンスの選定や委託先が研究開発型のベンチャ企業であるための調達、契約、知財管理などでの問題をクリアしようとしている。</p> <p>以上を含め、委託終了後10年間の収益納付は、計画を見直して、費用対効果を100%超としている。</p> <p>今後、これらの状況変化への対応策が実を結び、早期に収益納付に繋がることを期待したい。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。